

目次／テーマ展「驚異の部屋～博物館の珍品・お宝大集合～」表紙／いわて自然ノート「化石標本のレプリカと3Dデータの作成・活用について」p.2-3／展覧会案内 テーマ展「驚異の部屋～博物館の珍品・お宝大集合～」 p.4-5／事業報告「岩手県立博物館まつり」／事業報告「第88回地質観察会」 p.6／事業報告「令和6年度岩手県文化遺産防災訓練」／事業報告「ミュージアムドラマ」 p.7／インフォメーション p.8

テーマ展

「驚異の部屋～博物館の珍品・お宝大集合～」

令和7年3月29日(土)～5月18日(日)

場所：2階 オザワ工業ぎゃらりー（特別展示室）



16～18世紀のヨーロッパでさかんにつくられた「ヴンダーカンマー」（ドイツ語でWunderkammer、意味：驚異の部屋）。ここには、動植物の標本、美術品や貴重品、奇怪なコレクションなどが多数陳列されていました。この「驚異の部屋」は今日の博物館の原型ともいわれています。今回は、何でもありの展示室「驚異の部屋」を模して、岩手県立博物館にある珍品怪奇な資料、高額な資料、ちょっと危ない資料を一堂に展示いたします。

■いわて自然ノート

化石標本のレプリカと3Dデータの作成・活用について

地質部門 専門学芸員 望月貴史

実物標本とレプリカ

博物館に収蔵されている地質部門の標本には実物標本と複製標本（レプリカ）があります（図1）。実物標本には実際に地層から産出した化石や岩石、現生の動物の骨格などがあります。一方でレプリカは、実物の化石や岩石、骨格とほとんど寸分^{たが}違わぬ形・大きさで人工的に作られた標本になります。標本の中には、実物標本がなくレプリカだけがあるものや、実物標本とレプリカの両方があるものもあります。なぜレプリカは必要なのでしょう？ じつはレプリカには実物標本には果たすことができない重要な役割があるのです。

地質標本におけるレプリカ

「レプリカ」という言葉は、分野や資料の種類等によって少しずつ意味合いが違います。地質標本においてはレプリカという言葉は、多くの場合、実物標本を元にして作られた実物と同じ大きさ、同じ形（場合によっては同じ色）の標本のことを指して言います。一方で、形が同じであっても大きさが異なるものや、化石を元にかつて生きていた時の姿を想像して作られたものなどは「模型」と呼ば

れます。

レプリカの意義

レプリカの大きな意義のひとつは、世界に一つしかない実物標本と見た目の上では全く同じ標本を複数作成できることにあります。これによって、実物標本を所蔵している博物館や大学などの研究施設以外の場所でも同様の標本を見ることができると、資料保護の観点から実物標本を触って観察することが難しい場合でも、レプリカであれば実際に手にとって近くで観察することができます。

また、博物館には恐竜や大昔の大型ほ乳類などの化石の全身骨格が展示されていることがありますが、全身骨格標本の多くはレプリカで構成されています。

これには大きな理由が2つあります。ひとつは実物の化石は石であるため、重量がかなり大きく、全身骨格を組み上げるのが非常に困難になるという点が挙げられます。一方、レプリカは樹脂などで作ることができるため、実物に比べると重量が小さく、組み上げが比較的容易になります。また、全身骨格を安定した形に保つためには骨の各部分を固定する必要がありますが、実物を用いた場合には

貴重な化石を傷つけてしまう可能性があります。しかし、レプリカであればそうしたことを気にすることなく、また場合によっては穴を空けたり削ったりして固定することが可能になります。

レプリカの作成方法

従来の主な化石のレプリカの作成方法は、型取り剤や石膏などを使って実物の化石から直接型を取り、そこに樹脂や石膏などを流し込んで作成するのが一般的でした。この方法は、表面の細かな凹凸などの構造を再現した精巧なレプリカを作ることができますが、実物の化石から直接型を取っている分、化石本体を傷つける恐れが常につきまといま

す。一方で、近年では画像データを用いて3Dイメージを作成し、データを元にして3Dプリンターでレプリカを作成するという方法が確立されています。この方法は前述の型を取る方法に比べると、データの精度によっては再現性がやや劣ることもあるのですが、非接触でデータを作成するために化石を傷つける恐れがほとんどないという利点があります。また、3Dプリンターの設定によって、実物大から縮小もしくは拡大した模型を作ることでもできます。

三陸希望遺産デジタル・アーカイブ構築プロジェクト

当館では令和6年度Innovate Museum採択事業として「三陸希望遺産デジタル・アーカイブ構築プロジェクト」を行っています。これは岩手県内外の博物館や大学と連携し、博物館のDX化の推進や、貴重な地質標本を3Dデータ化して残すことによって学術情報の保全と共有を図ることなどを目的としたものです。具体的には、各施設に所蔵されている岩手県沿岸を中心に産出した化石標本についてデジタルアーカイブを作るとともに、化



図1. 恐竜の歯の化石の実物（左）と石膏で作ったレプリカ（右）

石標本の3Dデータを作成し、実物とともに後世に残すといったことを行っています。また、作成した3Dデータを元に3Dプリンターを利用してレプリカを作り、教育普及イベントなどに活用する試みも行っています。

3Dデータの作成と直面した課題

地質部門では現在9000点を超える標本が登録されていますが、今回3Dデータを作成する化石標本として、主にこれまでに論文や研究報告などで報告されたことがある標本を選びました。

また、3Dデータの作成にあたっては、「フォトグラメトリー」と呼ばれる手法を用いて行いました。これは標本を台に乗せ、15°ずつ回転させながら360°の写真を撮り、その後でコンピュータのプログラム上で合成して3Dデータ化する手法です。こうした撮影や画像の合成を専門の業者に委託し、当館に収蔵している約45点の化石標本の3Dデータを作成しました。(図2)

しかし、作業の過程でいくつかの課題が見えてきました。

ひとつは、化石標本には大きいものから小さいものまで様々なものがありますが、小さい標本になるほどデータの作成に手間と時間がかかるということです。撮影した画像を元にして3Dデータを作成するため、画像は可能な限り高精細なものが望ましいのですが、標本が小さい場合には焦点を合わせにくくなり、3Dデータを作成するのに十分な画像を得るために何度も撮り直しが必要になります。

また、標本が白色であったり光沢のあるものであった場合には光を反射してしまうため、標本を正確に撮影することが困難になります。そのため、こうした標本もデータの作成が困難になります。特に化石は石灰岩と呼ばれる白い岩石中に

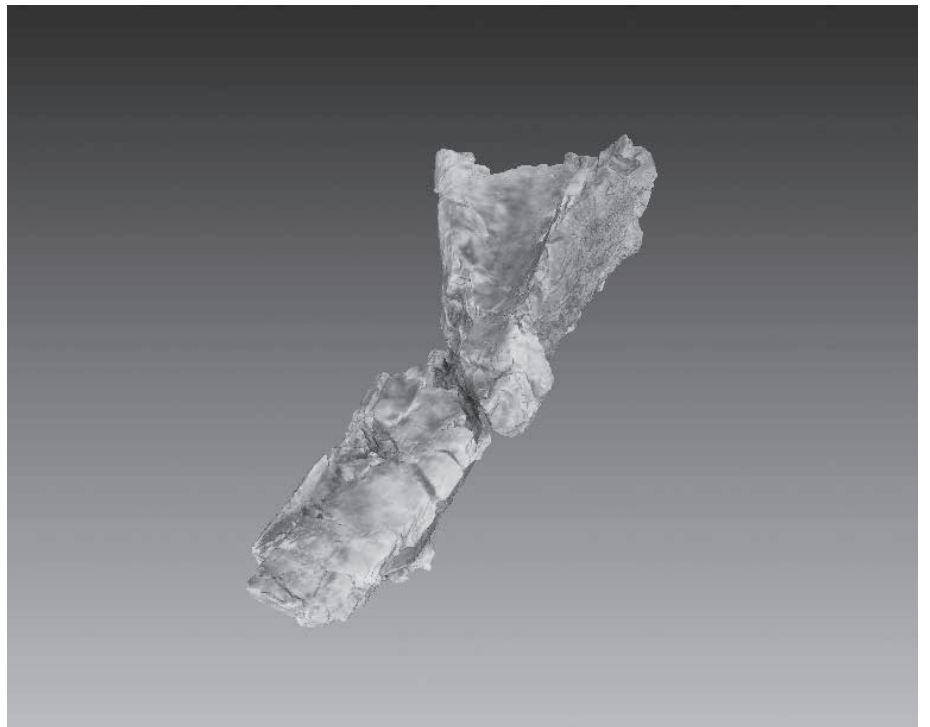


図2. モシリウウの上腕骨の3Dデータ

含まれることも多く、今後これらの標本を3Dデータ化するには、後に洗浄で落とすことができるパウダーを吹き付けるなどの対策を講じる必要があります。

3Dデータの保存・活用と将来展望

化石標本を3Dデータとして保存していくことには、大きな意味があります。

ひとつには、通常の写真では写っている標本の二次元的な情報しか読み取ることができませんが、3Dデータの場合はあらゆる方向からの観察が可能となるため、三次元的な情報を得ることが可能になります。またこれまででは、ある施設に収蔵されている標本を様々な方向から観察するためには、実際にその施設に赴く必要がありましたが、3Dデータ化した標本に関しては、インターネット上のデータのやり取りのみである程度の観察をすることができるようになります。

もう一つの大きな意義としては、将来的な災害に対する備えとしての機能が期待できるということです。例えば、何か

の災害によって収蔵標本が流失した場合、標本本体とその管理のために付帯されている標本ラベルとがバラバラになってしまうことが予想されます。こうした場合でも、3Dデータがあることで、標本とラベルとを照合することが容易になります。また、仮に標本本体が失われた場合でも、3Dプリンターを使うことでレプリカを作ることができるため、完全ではないとしても形の上での標本の復元が可能になることが期待できます。

このプロジェクトはまだ始まったばかりであるため、現時点では、全体から見ればわずかな数の標本のみ3Dデータ化した段階ですが、将来的にはより多くの標本についても同様の取組を行うことができると考えています。また、データ作成を通して得られた成果や明らかになった課題なども随時共有することができればと考えています。

■展覧会案内

テーマ展 驚異の部屋～博物館の珍品・お宝大集合～

会期：令和7年3月29日(土)～5月18日(日) 会場：オザワ工業ギャラリー（特別展示室）

■はじめに

岩手県立博物館は、地質・考古・歴史・民俗・生物・文化財科学の6部門による総合博物館で、昭和55年（1980）10月に開館しました。開館以来、県民の皆様からの寄贈資料や学芸員が自ら収集した資料をはじめ、入手困難なものについては購入等による資料収集活動を行っており、令和5年度（2024年3月31日）までに収蔵されている博物館資料の総点数は、376,420点に及んでいます。その中でも、常設展示されるものはわずか2,000点に過ぎず、この他の資料は適正な管理のもと5つの収蔵庫に分類整理され保管されているのです。

今回のテーマ展では、これまで展示されてこなかった資料や怪奇珍品、謎の資料、高価な資料などを展示いたします。

■プロローグ

～Museum・博物館のはじまり～

皆さんは、博物館の起源をご存じでしょうか。英語で「博物館」は、Museum（ミュージアム）であり、4世紀頃エジプトのアレクサンドリアに創設された王立研究所であるムセイオンがその語源とされています。ここには多くの学者が集い、歴史や地理、哲学、宗教、文学さらに数学や物理学などの自然科学を研究し、図書館を併設した大規模な研究センターの役割を担っていました。

文部科学省の社会教育調査によると、現在、日本には5,700館以上の博物館（※社会教育調査における分類により、総合博物館、歴史博物館、美術博物館、科学博物館、動物園、水族館、植物園、動植物園、野外博物館の数）があります。このように多様な博物館がある国は世界でも珍しいそうです。

ここでは当館の歩みをたどりながら、

その役割についてもご紹介します。

■第1章 驚異の部屋

～怪奇珍品・これは一体何ですか!?!～

ルネサンス、大航海時代のヨーロッパでは、王侯貴族や権威者たちのコレクション熱が高まり、世界中から美術、工芸、自然等の貴重品や珍奇・不思議なものが集められ、これらコレクションを保管する特別な部屋・施設であるヴンダーカンマー（ドイツ語でWunderkammer、「驚異の部屋」の意）等が各地につくられました。限られた人々の権威や富の象徴であった展示は、やがて市民へ公開される動きを見せ始めます。ありとあらゆる品々が一堂に集められた、ヴンダーカンマー（「驚異の部屋」）は、美術館や博物館の原型とされています。

今回の展覧会では、このヴンダーカンマーにちなみ、本来分類・整理されている資料をあえてジャンルにとらわれない展示手法を試みました。想像もつかないミステリアスな資料に会えるはずです。ここで、ほんの一部をご紹介します。



図1 ユーボストリコセラス
野田村野田/前期白亜紀

図1は、野田村で見つかった中生代白亜紀のアンモナイトの化石です。アンモナイトと言うと螺旋状の形を思い浮かべることが多いのですが、この種類は巻きがほどけたような形をしており、「異常巻アンモナイト」と呼ばれます。

また、生物部門で所蔵しているとても

珍しい資料を展示します。1982年から1994年まで上野動物園にいたジャイアントパンダ、フェイフェイ（飛飛；1982年来園、1994年死亡）の糞の標本です。保存のために表面を無色透明な樹脂で覆ってあります。1983年に当館に寄贈されました。こちらは会場で探してみてください。

■第2章 高額な部屋～必見!高額資料～

資料の価値はどのように見定められているのでしょうか。博物館で受け入れる資料の価値は、文化財としての希少価値や学術的価値などが検討されます。したがって重要文化財や県指定文化財の資料も所蔵しています。また、歴史・美術資料の多くは、希少価値を根本的に有する資料類であり、必然市場における価格も高額になるものも多くあります。

これら希少な資料は、その保管・管理を適切に行うため、常設展示となっていないものがほとんどです。この機会に是非、博物館が誇る逸品をご鑑賞ください。



図2 太刀 銘 助真
重要文化財/鎌倉時代

図2の「助真」は、鎌倉時代中期（13世紀後半）に活躍した備前国（現在の岡山県）福岡一文字派の刀工です。幕府の招きで鎌倉に下向し、鎌倉一文字派を興したと伝えられます。



図3 鯉尾兜

岩手県指定有形文化財／桃山時代

図3は、盛岡南部家伝来の兜です。戦国武将蒲生氏郷（1556–1596）の養女武姫が、のちの盛岡藩主南部利直（1576–1632）に嫁ぐ際、引出物として持参したと伝えられます。

当然ながら、高価で珍しいものだけがお宝ではありません。博物館には金銭的価値は乏しいけれども収集後に資料としての価値が導き出せる資料も多数所蔵されています。今後、地球・人類の悠久の歴史、あるいは先人から継承されてきた技を紐解く手掛かりとなり得る資料など、かけがえのない資料を所蔵しています。こういったお宝を未来の人々に伝える博物館の活動についても発信します。

■第3章 蒐集の部屋

～執念のコレクション～



図4 太田孝太郎氏中国古印コレクション

博物館の収蔵資料の中には、個人が趣味で集めたものや研究者が学術研究のため蒐集した資料が含まれています。この展示では、研究者たちが情熱を注いで蒐集した資料を展示いたします。

図4は、太田孝太郎氏が蒐集した、1,000点をこえる中国の印章のコレクションです。各時代の様々な文字の印章を網羅しており、国際的にも無二のコレクションと評価されています。

■第4章 危険な部屋

～ヤバイ資料たち・毒、武器、迷信!?～

ここでは、毒を含む鉱石や植物標本、信仰にまつわる道具など、ちょっと危ない資料を集めました。



図5 巫女の道具 大正～昭和初期

図5は、宗教者が用いる数珠の一種です。岩手にはイタコやミコ、オガミサマ（神子や巫女）などと呼ばれる宗教者がおり、祈祷などを生業としています。様々な動物の角や骨、貝殻などが付属します。

■第5章 学芸員の部屋

～私、こんな調査研究しています～

博物館の役割には、資料の収集・保管、調査研究、展示、教育普及などがあります。ここでは、当館学芸員の仕事内容と各学芸員が行っている調査・研究活動についてご紹介します。

■トピック展 剥製と骨の部屋

当館が所蔵する剥製標本や骨格標本には、展示室で展示されないものもあります。生物学的な本来の形とは異なっているなどの理由があります。



図6 マイアサウラ全身骨格標本
アメリカ／後期白亜紀

例えば図6は、マイアサウラという中生代白亜紀の北米大陸に生息していた恐竜の全身骨格です。この標本の姿勢は、いわゆる「ゴジラ型」の復元姿勢と言われ、1980年代頃までは多くの恐竜図鑑で見られた立ち姿です。現在の学説に合わなくなったためお蔵入りとなってしまいました。

■エピソード

～プライスレスな資料たち～

資料を確実に次世代へ継承するためには適切な保存管理が必要です。当館では、資料が有する過去の情報を自然科学的な方法で読み取り、学術資料を恒久的に保存することを目的に、文化財科学部門が置かれています。貴重な文化財を守るため行っている日々の業務について解説します。

■おわりに

一見ただけでは訳の分からぬ摩訶不思議な品々を蒐集し、ジャンルにとらわれないことなく陳列したウンダーカンマー、博物館の原型。先入観を捨て、資料そのものが放つ「奇怪さ」「不思議さ」「美しさ」に触れてみてください。きっと想像力が掻き立てられ、新たな「知の発見」へとつながるはずですよ。

（主任専門学芸員 近藤良子）

■事業報告

第13回 岩手県立博物館まつり

日時：令和6年10月12日(土)・13日(日)

10月12日(土)・13日(日)の2日間にわたって、当館最大級のイベントである「第13回 岩手県立博物館まつり」(以下、博物館まつりと表記)を開催しました。このイベントは、広く一般の方々に博物館をより身近に感じていただくため、様々な体験を通して、岩手の地勢や自然の豊かさ、先人の生活の知恵を体感していただき、総合博物館の魅力を県民の皆様を紹介することなどを趣旨として開催されています。

今回の博物館まつりでは、①松ぼっくりを使ったフクロウの置物づくり、②プラスチック粘土と化石の型を使った化石のレプリカづくり、③ペットボトルとスライムを使ったスライム時計づくり、④イタドリ笛など昔懐かしい遊びの体験、

⑤当館の岩石園・植物園の探検、⑥館内に設置されたチャレンジマーク・化石のレプリカを探しながらの博物館の探検、⑦岩手県立大学ダブルダッチサークル「ROPE A DOPE」による実演・体験会、⑧企画展「捕食者の献立」展示解説会が実施されました。また、ろーりえキッチン移動販売様、ゴウちゃんのコロッケ屋様、そして当館に併設されている喫茶ひだまりによる物販もおこなわれました。



博物館まつりが開催された2日間で合計1723名もの方に当館にお越しいただき、多くの方に各イベントにご参加いただきました。「ROPE A DOPE」によるダブルダッチの実演・体験会での出演した学生たちの姿、そして子供たちが楽しむ姿は大変印象的でした。博物館をより身近に感じていただくことができたのではないかと考えています。

(学芸員 大銃地駿佑)

■事業報告

第88回地質観察会「一関市東山町の古生界と化石」

日時：令和6年10月26日(土)

第88回地質観察会を一関市東山町で15名の参加をいただき実施しました。この季節とは思えない程に日差しが強く、汗をかきながらの観察会になりました。

東山町はその大部分が古生代の地層で構成されています。本観察会では鶯ヶ森層(後期デボン紀)と唐梅館層(石炭紀)と呼ばれる地層を観察しました。鶯ヶ森層はおもに砂岩や泥岩といった堆積岩からなります。泥岩層には海棲生物や陸上植物の化石が多く含まれています。唐梅館層は砂岩や泥岩のほか、凝灰岩を含みます。唐梅館層の露頭は唐梅館総合公園で見ることができました。気軽に化石採取を体験できる場として多くの方に親しまれていましたが、大規模な崩落があり現在は近づくことができなくなりました。

いました。その崩落した岩片は、石と賢治のミュージアムが回収し来館者に化石観察の場を提供しています。

午前中の観察地は、かつて某番組でタモリさんも訪れたことがある「粘土山」と呼ばれる鶯ヶ森層の露頭です。ウミユリ、コケムシ、腕足類など、次から次へと化石が見つかります。三葉虫の化石が見つかった時には一際大きな歓声が上がりました。そもそも鶯ヶ森層では三葉虫の産出が少ないと言われており、その中での発見に盛り上がりました。

午後は、石と賢治のミュージアムに場所を移し、館長の菅原淳氏に館内を案内していただきました。国内外の美しい鉱物標本のほか、東山町の化石採集家であった故七田清氏が生涯をかけて集めた標本

の数々を見学しました。崩落した唐梅館層の岩片(前述)も観察させていただきました。直接手にとりながら、鶯ヶ森層との岩質や産出する化石の違いを観察でき有意義な体験になったと思います。

観察会の開催にあたり、(有)栄和興業様、石と賢治のミュージアム様、大船渡市博物館の古澤明様には多大な御協力を賜りました。心より感謝申し上げます。



(主任専門学芸調査員 佐藤修一郎)

■事業報告

令和6年度岩手県文化遺産防災訓練

日時：令和6年11月22日(金)、13:30~16:00 場所：岩手県立博物館 講堂ほか

当館では、令和5年度より運用が開始された「岩手県版文化遺産防災マップ」の活用をはかるとともに、横断的な防災体制整備を目指し、博物館等文化施設や県内に所在する各種文化遺産の防災をテーマとした訓練を主催しています。

昨年度に続いて2回目の開催となる今回は、防災マップを用いた文化施設・文化遺産の自然災害被災リスクに関する情報収集や、有事の際に各所属先が提供可能なリソースの洗い出しに加え、県内各地で続発した警報級豪雨への対応の実際に関する情報交換、さらには能登半島において現在進行形で行われている文化財レスキューで求められるスキル、ノウハウの共有など、時宜にかなう内容構成に努めました。

岩手県教育委員会及び県内市町村の文化財担当者、岩手県博物館等連絡協議会加盟館園職員の皆様より、前回の2倍以上の参加を得たほか、文化遺産防災マップの開発者である東北大学災害科学国際研究所蝦名裕一准教授の研究グループの皆様、文化財防災センター東北地区ご担当者様にもアドバイザーとしてご参加いただくことで、昨年度以上に充実した訓練を執り行うことができました。

自治体、施設をまたいで同一の目標に対し協業を行うことは、普段の業務では得難い経験であり、仮に提示された条件の下とはいえ、目の前の資料や被災した施設を救うために自分や自らが属する組織に何ができるか、真剣な議論が展開される様子が見受けられました。

東日本大震災で文化施設、文化遺産の大規模被災を経験した岩手県だからこそ、同様の事態を繰り返さないため、^{たゆ}弛まぬ努力を続ける必要があるものと思いますし、こうして積み重ねる試行錯誤は、当県のみならず、同じような自然災害被災リスクを抱えるあらゆる地域の文化遺産防災にも寄与し得るものと信じ、今後も岩手県ならではの取組を継続していきたいと考えています。

(専門学芸調査員 目時和哉)



■事業報告

ミュージアムドラマ 劇団しばいぬ「サンタ、くろうす」

開催日：令和6年12月15日(日)

今年度のミュージアムコンサートは形を「ドラマ」に変えて、クリスマスにちなんだお芝居を劇団しばいぬが上演しました。劇団しばいぬは、岩手を拠点に演劇活動を行い、2025年には結成15周年を迎える劇団です。当館の講堂ではおそらく初めての演劇公演となりましたが、たくさんのお客様にご観劇いただき大変盛況でした。ありがとうございました。

実は劇団しばいぬには私自身も所属しています。皆さんは演劇と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。演劇は、生身の人間が演じることと、お客様が観劇することで初めて成立するもので、ある種アナログで日常には少し馴染みの薄いコンテンツかもしれません。音楽ライブや著名俳優が出演する舞台を鑑賞する機会

あっても、アマチュア劇団の演劇を娯楽として身近に感じていただくにはどうしたらよいか、運営側としては永遠の探求課題です。

さて今回のお芝居は、サンタさんがなかよしのトナカイたちと一緒に様々な困難に立ち向かうお話でした。演劇に馴染みがないに関わらず、お客様へ何をご提供できるか改めて考えた時に浮かんだのは「楽しむこと」でした。自分達自身が楽しく演じること、演劇の楽しさを伝えること、お客様と一緒に楽しいお芝居を創ること。のびのびと無限の創造力で広がる演劇は、どのコンテンツにも代えがたい「楽しい」ものだと私は思います。小さなお子様には少しわかりにくい内容だったかもしれませんが、笑顔で帰

られる姿をみて安心しました。

演劇がこの先どのような形になっていくかはわかりません。しかし演劇の世界はほとんどが嘘の世界です。人々の生活の中で生まれるちょっとした嘘や寓話がおもしろい演劇の世界をつくるのかなと思うと、これからも演劇は生き続けるのだろうと個人的には思います。

ミュージアムドラマを通して、演劇の楽しさを少しでもお届けできたら幸いです。

(総務課 田原かおり)





岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション

〈令和7年3月1日～令和7年6月30日〉

お知らせ

●国際博物館の日記念 入館無料の日

国際博物館の日にちなみ、5月18日(日)の入館料を無料とします。

展覧会

●テーマ展「迎へ～岩手の囲碁将棋」

令和7年1月7日(火)～3月9日(日)

会場：2階・オザワ工業ギャラリー(特別展示室)

古代日本に伝来した囲碁と将棋が、時を経て岩手に広まり嗜まれ、文化として根付くまでの歩みを紹介します。

●テーマ展「驚異の部屋」～博物館の珍品・お宝大集合～

令和7年3月29日(土)～5月18日(日)

会場：2階・オザワ工業ギャラリー(特別展示室)

各部門からこれまで展示されてこなかった資料や怪奇珍品、謎の資料、高価な資料などを展示紹介いたします。

○展示解説会Ⅰ(大人向け)要入館料(高校生以下無料)

4月6日(日)、4月19日(土) 14:30～15:30

○展示解説会Ⅱ(子ども向け)要入館料(高校生以下無料)

4月26日(土)、5月5日(月・祝) 14:30～15:00

ゆるキャラ“わんこ郎くん”と一緒に展示室の不思議なお宝を発見しにいこう

○子ども向けイベント

①鳥の羽のしおり作り 5月3日(土・祝)(事前予約制)

鳥の剥製や羽を観察し、羽をラミネートしてしおりを作ります。

②化石のクリーニング体験 5月6日(火・振替休日)(事前予約制)

化石のクリーニングをとおして学芸員の仕事を体験します。

※①・②ともに、

対象：幼児(4歳以上)から小学生10名程度

(未就学児は保護者の付き添いをお願いします。)

会場：実技室

参加費：無料

時間：午前の部10:00～ 午後の部13:00～(所要時間1時間)

申込：詳細はHP等で順次公表いたします

○出張ミニ展示：書肆みず盛りコラボ企画

「裏」驚異の部屋～総合博物館のおもしろさを知る～展

日時：4月16日(水)～5月11日(日)

※月火定休、4/29(火・祝)、5/5(月・祝)、5/6(火・振替休日)

は営業、5/7(水)は店休

場所：書肆みず盛り(盛岡市南大通り一丁目12-18 松栄館2階)

●企画展「星にねがいを～宇宙(そら)といわたの年代記～」

令和7年6月14日(土)～8月17日(日)

会場：2階・オザワ工業ギャラリー(特別展示室)

銀河鉄道が走る私たちのふるさと、いわて。宇宙と人との関わりという視点からその歴史をたどります。

■県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

*展覧会関連講座

3月9日 「岩手県の植物相を調べよう！」

講師：鈴木まほろ(当館学芸員)

3月23日 「続 雑学のススメ」(笑いと頭の体操)

～中高年の皆さんと一緒に考える名言 No.4～

(渋沢栄一も愛した論語とは…。孔子の言葉は、時代を超えて今もなお私たちの心に響き続けています)

講師：高橋廣至(館長)

*4月13日 テーマ展「驚異の部屋鑑賞ガイド」

～博物館ってこんな物も所蔵しています～

講師：近藤良子(当館学芸員)

*4月27日 宝探し! 魅惑の昆虫標本室 講師：渡辺修二(当館学芸員)

*5月11日 「驚異の部屋」を守る～県博の文化財科学～

講師：丸山浩治(当館学芸員)

5月25日 鳥の新しい分類と進化 講師：高橋雅雄(当館学芸員)

6月8日 生命史をひも解く 新第三紀・第四紀

講師：望月貴史(当館学芸課長)

*6月22日 【予定】企画展関連講座 講師：外部講師

■国際博物館の日

◆国際博物館の日記念 県博バックヤードツアー(事前申込制)

5月18日(日)事前申込(応募者多数の場合は抽選)

国際博物館の日にちなみ、普段は見られない収蔵庫などを特別にご案内します。いずれかのコースを選んでお申込みください。(各回定員5名)

自然コース 10:20～11:40

歴史コース 13:20～14:40

募集期間：4月8日(火)～4月20日(日)

応募方法：専用メールに①参加希望コース、②住所、③参加者全員の氏名、④電話番号を明記の上、送信してください。(詳細はホームページをご覧ください。)

■週末の催し

◆ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13:30～15:00頃 講堂 当日受付 視聴無料

○3月1日(実写/93分/一般向け)

「こどもしよくどう」

○4月5日(実写/98分/一般向け)

「GOING WEST 西へ…」

○5月3日(フィルム・アニメ/計58分/幼児～小学生向け)

①「くまのプーさん イーヨのおたんじょう日」(28分)

②「くまのプーさん プーさんと虎」(30分)

○6月7日(実写/計132分/一般向け)

「橋のない川」

◆チャレンジ!はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜 小学生向け 随時受付

チャレンジ!マークをさがしてはくぶつかんをたんけん!

3月8日・9日・15日・16日 テーマ：春(はる)

4月12日・13日・19日・20日 テーマ：珍しい(めずらしい)

5月10日・11日・17日・18日 テーマ：魚(さかな)

6月14日・15日・21日・22日 テーマ：草木(くさき)

◆たいけん教室～みんなのためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13:00～14:30

幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生10名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。

※全プログラム有料です(材料費代/プログラムごと異なります)。

※予約は専用メール(一度に3名まで)で受け付け、応募多数の場合には抽選を行います。詳細は博物館ホームページをご確認ください。

3月	9日	アンモナイトの消しゴムづくり	5月	4日	手づくり万華鏡
	16日	天然石のフォトフレーム		11日	化石のレプリカ①
	23日	手づくり万華鏡★		18日	オリジナル卵をつくらう
4月	13日 20日 27日	スライムであそぼう① まが玉アクセサリー① こいのぼりづくり	6月	25日	草花のそめもの
				1日	チャグチャグ馬コづくり
				8日	カラフルクモづくり①
				15日	アンモナイトの消しゴムづくり
				22日	まが玉アクセサリー②
				29日	ウォータードームづくり

★印は午前(10:00～11:30)と午後(13:00～14:30)の2回あります。

■利用のご案内

■開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

■入館料 一般330(150)円・大学生150(80)円・高校生以下無料

()内は20名以上の団体割引料金

※若手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様と一緒に来館された場合は、入館料免除となります。

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第184号 令和7年3月1日発行	編集	岩手県立博物館
		〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34
		Tel. (019)661-2831/Fax. (019)665-1214
	発行	公益財団法人岩手県文化振興事業団
		〒020-0023 盛岡市内丸13-1
		Tel. (019)654-2235/Fax. (019)625-3595